

環境汚染防止、資源の再利用、環境と健康に役立つ。

貴重な資源である建築廃材、間伐材、木くず、使用済みの家具等のいわゆる木質系廃棄物と草は、そのほとんどが再利用されることなく焼却や埋め立て処分されています。



これを価値あるものに再生し、資源とエネルギーのリサイクルをさせるようにしたのが、当社の「**自然乾留型連続炭化装置**」です。これにより、原料破碎から製品回収まで、一連の作業が連続的に効率よく行われ、適正な温度条件による均質な木炭が製造されます。

- 再資源化を行うことにより、以下のような効果が期待されます。 -

【 環境汚染を防止します 】

今まで、焼却や埋め立てをしていた木質系廃棄物を、木炭としてリサイクルすることによって、資源とエネルギーを再利用すると同時に、地球温暖化と環境汚染の防止に役立ちます。

【 環境浄化に役立ちます 】

製造された木炭は、土壌改良、河川浄化など、自然環境を浄化するのに役立ちます。

【 健康な生活環境を提供します 】

木炭を住宅の床下に敷く事によって、調湿とマイナスイオン効果による、健康で快適な住宅環境とすることができます。

【 多くの生産品原料となります 】

木炭の持つ、調湿、脱臭、吸着、多孔性、等の特性を生かした、数多くの製品の有力な原料または資料となります。

自然乾留型連続炭化装置の特徴。

自然乾留型連続炭化装置を使用することで、利用できる原料、炭化物の用途が広がり、環境資源の効率的な再利用が可能となりました。

この装置の特徴としては、

【 大容量の処理が出来る 】

含水率15%の木材に換算して 0.25~2.50 t/h の処理が可能な装置を標準機種としており、さらに大容量のものも設計可能です。

【 高い収炭率が得られる 】

原料木材の重量の 20～25%の良質な木炭が回収できます。

【 焼成温度が任意に設定できる 】

回収木炭は他の混合物を含まず、木炭本来の性質を利用した用途に広い範囲で利用できます。

【 炭化用の燃料は、着火時以外は不要 】

木炭化は、木材の一部が自燃することで進行します。

乾留木ガスが安定すると自燃開始後の燃料は、全工程で一切不要です。

【 廃熱エネルギーが回収できる 】

炭化に伴う乾留ガスは、一酸化炭素と炭化水素が主体で、

これに空気を混入して再燃焼させ、排気します。

排気ガスの温度は 1000℃以上あり、原料が間伐材のような生材の場合には

その一部を原料の乾燥に使用しますが、 それでも大量の熱量が余るので、

それを利用して他の装置の熱源にすることができます。

